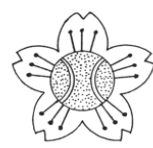


令和8年4月30日発行

横浜市立六浦小学校学校だより



むつうら



本校教育目標「つながるなかま まち いきいき 六浦っ子」

「心のスイッチ」

校長 内野 泰久

新緑がまぶしく、風薫る五月となりました。校庭の木々も日に日に葉を広げ、子どもたちの元気な声がいっそう響き渡る季節です。新学年が始まって一か月、子どもたちは新しい友達や先生、新しい学習や活動に少しずつ慣れ、それぞれの歩みを進めています。

先日の朝会で全校児童を前に次のような話をしました。「心のスイッチ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。ある学習塾のコマーシャルでは「やる気スイッチは、きっとどこかにある」と紹介され、人の体の見えるところにスイッチが付いている様子が描かれています。しかし、実際のスイッチは体ではなく、私たち一人一人の心の中にあるのではないのでしょうか。家にある電気のスイッチも、そこに付いているだけでは部屋は明るくなりません。自分の手で「点けよう」とスイッチを入れて初めて、部屋が明るくなります。心のスイッチも同じで、待っているだけではなかなか入りません。自分で考え、行動することで、初めてスイッチが入るのだと思います。

心のスイッチには、やる気だけでなく、さまざまな種類があります。例えば、「優しさ」や「思いやり」もその一つです。困っている友達に気づいたとき、「どうしたの?」「手伝おうか?」と声をかける。その小さな行動が、優しさのスイッチを入れることにつながります。すると、声をかけられた友達の心が明るくなるだけでなく、声をかけた自分の心も温かく照らされます。

学校は、こうした心のスイッチを探して、入れる練習をする場でもあります。友達と関わり、失敗や成功を経験しながら、子どもたちは少しずつ心を育てていきます。周りをよく見て行動すること、相手の気持ちを考えること、その積み重ねが、明るく温かな学校をつくれます。子どもたち一人一人の心のスイッチが輝く一年にしていきたいと願っています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。